

## この 25 年間で成人の収縮期血圧が世界的に上昇

収縮期血圧の上昇は大きな健康被害につながる。収縮期血圧レベルを定量化することは、予防対策や介入を行うために重要である。本研究では、世界 154 か国からの 844 試験（総被験者数 869 万人）をもとに収縮期血圧値と死亡・障害との関連について調査した。

収縮期血圧値 110～115mmHg 以上の人の割合は、1990 年から 2015 年の間に 10 万人中 73,119 人から 81,373 人に増加した。また、140mmHg 以上の人の割合も、10 万人中 17,307 人から 20,526 人に増加した。収縮期血圧値 110～115mmHg 以上における年間死亡率は 10 万人中 135.6 人から 145.2 人に増加し、140mmHg 以上では同様に 97.6 人から 106.3 人に増加した。収縮期血圧に関連する死亡で最も多かったには、虚血性心疾患（490 万人）、次いで出血性脳卒中（200 万人）、虚血性脳卒中（150 万人）であった。

したがって、1990 年から 2015 年の間に世界の成人の収縮期血圧値は上昇しており、2015 年時点において、収縮期血圧値が 110～115mmHg 以上の成人は世界で 35 億人、140mmHg 以上の成人は 8 億 7,400 万人いることが明らかとなった。また、収縮期血圧の高値により虚血性心疾患や出血性脳卒中などの死亡率も高くなっていることがわかった。

出典：Journal of the American Medical Association. 2017; 317(2): 165-182